

## 編集室



明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

「水産宮崎」の担当となり早4年が経ち、多くの方々の協力を得て今年も新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと、WBC（ワールドベースボールクラシック）がコロナ禍の影響により6年ぶりに開催され、日本代表の侍ジャパンが全勝優勝で世界一を奪還したことにより、日本中が歓喜に包まれました。また、外国人技能実習生の受け入れなど多方面に影響を与えた新型コロナウイルス感染症も第5類に引き下げられ、コロナ前の日常がようやく戻って参りました。

一方、我々漁業界における漁業経営を取り巻く環境に目を転じますと、国際資源であるクロマグロの漁獲枠において、大臣許可船に公的IQ制度が本格導入され2年目となりました。

漁業経営コストにおいては、燃油価格・飼料の原材料費の高騰、高止まりが依然続いており、令和5年度の漁業経営セーフティーネットは、第1～2四半期ともに発動となるなど、漁家経営を圧迫しております。

さらに、福島第一原子力発電所における放射線物質を含む処理水（ALPS処理水）の海洋放出が開始され、放出完了まで30年程度見込まれていることから、日本産水産物への風評被害等、未だ先の見えない状況であり、安全性の確保や風評被害対策がこれからの課題となっております。

このような状況の中、JFグループで働く職員として、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方々へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報を発信し続ける必要性を再認識しております。

漁業を取り巻く環境は、依然として漁業収益の減少や後継者不足等厳しい状況ではありますが、この「水産宮崎」が、漁業者の皆様の実業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとしてご活用いただけるように、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

結びになりますが、今年1年が皆様にとって、実り多き年になりますようご祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

